

て尋ね、さらに個別化を図るようにします。Aの生徒は、程度の高い問題も解けているので、努力のあとが見られます。さらにより一層学習意欲が高まるように、適切な励ましが必要です。

### 3 学習推移表による個別診断

毎回のS-P表を分析し、個々の生徒の達成水準の変動を学習推移表に示すことによって、一人ひとりの生徒の学習推移をとらえ、個別診断が容易になります。学習推移表は次のようにして作ります。

S-P表の合計得点の平均点 $\mu$ を中心に、 $\mu \pm \frac{\sigma}{2}$  ( $\sigma$ : 標準偏差, 正規分布のとき $\mu \pm \frac{\sigma}{2}$ の範囲内に全体の約40%の生徒が占める。例えば、生徒数45人のとき18人)の付近で区切りのいいところに線を引き、上から区間を、それぞれ、A(高位)、B(中位)およびC(低位)とします。このようなA、B、Cの区切り方は一つの一般的な方法ですから、実際にはS-P表を見た上で、その都度適当に基準を定めて決めればよいのです。こうして得られた分析データを学習推移表(あるいは学習推移のプロフィール)に書き入れていきます。このとき、教師自身が自分で書き入れていくことが大切です。教師が書き入れる際に、一人ひとりの生徒の顔、学習態度、発言などを思い出しながらA、B、Cを記入することは、個々の生徒を把握する上で大きな助けとなるからです。学習推移表をもとに個々の生徒の学習の達成水準の変動(例えば上昇形、下降形、不安定形などのパターン)の資料が得られ、生徒の個別指導が容易になります。